

# 運輸・交通システム EXPO 2017 & 新環境展2017 レポート

レポート◇岡 雅夫



運輸・交通システム EXPO 2017 展示会場

恒例の運輸・交通システム EXPO と新環境展が本年も5月24日から3日間、東京ビッグサイトで開催された。ワイヤレスジャパン及びドローンソリューション&技術展と共に西ホールでの開催だが、今回はワイヤレスとドローンは1階の西2ホール、運輸・交通システムは隣接のアトリウムへと場所を移しての開催となった。なお、新環境展は東1～6ホールで開催された。

運輸・交通システムは新規出展社も多く、カーナビゲーションなどどちらかと言えば一般向け或いは乗用車系の展示は同じ日程での開催となったパシフィコ横浜での自動車技術展(人とクルマのテクノロジー展)への参加にシフトすることで、ビッグサイトではより専門的な展示が増えた印象が強くなったように思われる。一方自動車技術展はより一般化する傾向にあり、それは展示傾向にも表れている。

つまり商売に繋がる展示及び商談は東京ビッグサイトで、技術を一般にもわかりやすく解説していたのがパシフィコ横浜であったと感ずる。一見キーコンセプトで続いているようなB2B展示会も徐々に変わりつつあるように見えるのは筆者だけではないと思う。

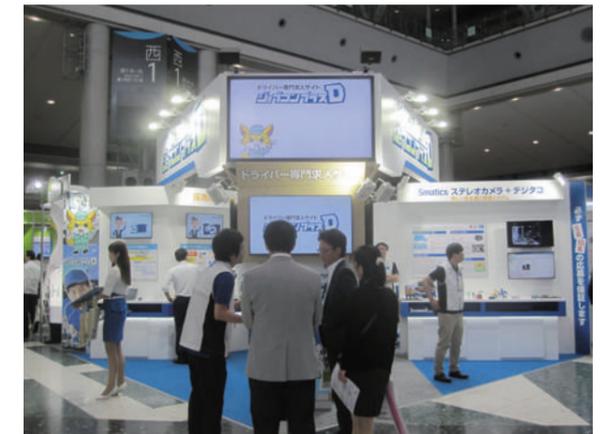
それでは主な出展社とポイントを紹介するが誌面の関係で出展全社を紹介できないことをあらかじめお断りさせていただく。今回は共同出展含め50社が参加している。

**テレシ・フィガロ技研・東洋マーク製作所** は貨物向けと旅客向けを通路を隔てて展示するというユニークな手法で得意の「点呼キーパー」システムを紹介している。



テレシ・フィガロ技研の「点呼キーパー」

**ティービーティ** はドライバー専門求人サイト「ジョブプラスD」を紹介している新規出展者。ステレオカメラとデジタコの展示もしている。



ティービーティのドライバー求人サイト「ジョブプラスD」

**株バドック** はアンロードプラスという可動荷台付きトラックをPRしていた。通常の後方積み下ろしによる危険性を回避し、真横に水平に荷台が降りてくるため実に簡単な作業で安全も確保できる優れたものである。積載重量が500kg程度までというから大型バイクは大丈夫だが、車両運搬に使えないのが難点といえる。



バドックは可動荷台付きトラックを紹介した

**株サンオータス** は昨年の日本トラックショーに出展して展示会出展効果があったとのことで、今回の運輸システム展にも出展している。出展物はディーゼルエンジンの整備機器で燃焼室内部を徹底洗浄するものである。インジェクターの交換やDPFの再生・交換頻度が大幅に軽減され、不完全燃焼を減ら

すことで環境保全にも貢献する。特に保有台数の多い運送会社が導入することでメリットが大きい。



サンオータスのディーゼルエンジン洗浄機

**（株）インバイト** はサ라운드ビューシステム「パノラマ 360°」を展示した。後付け可能な4つのカメラで俯瞰映像と直接映像を組み合わせ表示し、文字通り車の周囲360度全方位をカバーして死角を無くすものである。非常に簡単に後付けできる点が特徴である。



インバイトの360度監視モニター

**ユルサー（株）** は積荷のゆるみを防止するセンサーで、ラッシングベルトに取り付けたセンサーにより運転席モニターでゆるみを監視し、警報も発する仕組みである。アルミバン内部の荷物のゆるみも検知、モニターすることができる。

今回はバスに関する運輸システムが数社出展したことが新しいが、**（株）バスくる** は空車、片仕事のマッチングサービスや新運賃料金の計算も即座に可能で、全国ネットで活用することができる仕組みであ



ユルサーの積み荷緩み防止センサー



バスくるの空車マッチングシステム

る。旅行会社が利用することで効率的な配車が可能となる。

**アグレクション** はコンピュータが車のバッテリーを監視し、寿命を延ばし弱ったバッテリーが復活する機器である。12V用しかないが鉛バッテリーの電極に充放電反応阻害物質の付着を抑止し、既に付着した物質を除去する自動制御の装置である。バッ



アグレクションのバッテリー監視システム

テリーの電極に取り付けるだけの簡単な装置だが電圧・電流・温度の異常も検知しモニターできる。

この展示会の常連となった**テンツオフィス** は快走韋駄天という運送システムをPRしているが、社長自ら積極的に営業活動をしているのが印象的だ。



テンツオフィスの快走韋駄天システム



極東開発ブース



新明和ブース



ヒアブブース



モリタエコノスブース



ミシュランブース

さらに運輸・交通システム EXPO と全く同じ日程でパシフィコ横浜を会場にして開催された「人とクルマのテクノロジー展」に出展した大型3社(ふそうは出展していない)について紹介しておこう。

日野と UD トラックスは今回車両展示は無かったが発売直後の新型車のエンジン、トランスミッションを中心に PR していた。いすゞは現行トラクタヘッドを展示して特に衝突被害軽減ブレーキの警報シス

テムを実演していた。非常に珍しい展示物として超高級スポーツカーであるブガッティのW 16 気筒エンジンブロックがあり、一部マニアの注目を集めていた。毎回規模と来場者を拡大する同展示会は単な

る自動車技術展の枠を超えて、クルマの未来をプロにもアマチュアにも納得のいく見せ方をする車の総合展ともいえる内容になっている。



UDトラックスブース



日野の新大型車ダウンサイジングエンジン



いすゞブース



ブガッティ・ヴェイロンのW16気筒エンジン